

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	A-141	22-415 厚生会 道ノ尾病院 福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター松下幸生
題名（原題／訳）		
Ibudilast attenuates alcohol cue-elicited frontostriatal functional connectivity in alcohol use disorder イブジラストは、アルコール使用障害におけるアルコール刺激に誘発される前頭葉の機能的結合を減弱させる		
執筆者		
Burnette EM, Ray LA, Irwin MR, Grodin EN.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2021 Oct;45(10):2017-2028. doi: 10.1111/acer.14696. Epub 2021 Sep 29.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、脳機能画像、イブジラスト		34585396
要 旨		
<p>背景：アルコール使用障害（AUD）の治療薬として研究されている新規神経免疫調節薬であるイブジラストは、無作為化比較試験（NCT03489850）において、視覚的アルコール刺激に反応する腹側線条体（VS）の活性化を抑えることが示された。本研究では、この知見を拡張し、アルコール手がかりに誘発される VS 領域との機能的結合（すなわち、時間的に相関する活性化）に対するイブジラストの効果を探索した。また、試行中の機能的結合とアルコール使用との関連も検証する。</p> <p>方法：現在アルコール使用障害がある未治療者（n = 45）を、イブジラスト（50 mg）またはプラセボ（n = 25）の1日2回の投与に無作為に割り付けた。薬物またはプラセボの目標量に達した後、参加者は機能的神経画像によるアルコール刺激反応の配列に取り組んだ。ベースラインと2週間の試験期間中に毎日、1日あたりの飲酒量が評価された。</p> <p>結果：イブジラストは、プラセボと比較して、VS 領域と前頭葉眼窩および前帯状皮質を含む報酬処理領域との間のアルコール刺激反応による機能結合を減少させた（$p < 0.05$）。また、イブジラストは、プラセボと比較して、報酬処理領域と同様の領域において、アルコール刺激に反応する機能的結合を減少させた（$R^2 = 0.5351$, $p < 0.001$）。</p> <p>結論：イブジラストの飲酒転帰に対する効果は、報酬処理に関連する前頭葉回路における機能的結合の減衰に関連している可能性がある。これらの結果は、この新しい薬物療法の重要な概念実証を提供し、薬物開発に神経画像解析、特に機能的結合の解析を取り入れることの臨床的有用性を支持するものである。</p>		